

「 自然と向き合っていく 」

熊本県 熊本市立向山学校 5年 内田 終太郎

今年、大きな土砂災害がありました。

それは、広島と岡山を中心に大きな被害が出ました。ぼくはテレビでそのえい像を見た時、本当に住む所がこんなひどくなるのか、とおそろしく思いました。家が水にしずんだり、車が流されたり、うまっている人を救助する人達のえい像が毎日テレビで流れていました。悲しく思ったり、おどろいたりしました。そのころ、友達と遊んでいる時に、夕立ちがふりました。たくさん雨がふったので、テレビのえい像を思い出して、とても不安になりました。

ぼくは土砂災害について知るために、図書館に行きました。そこで、土砂災害の起こる原因などを知りました。

その原因は、大雨や地しんなどによって、地ぼんがゆるみ、土地や山のしゃ面などがくずれ落ちるといふ仕組みです。

ぼく達の住む熊本も、地しんで土砂災害を目の当たりにしました。山が大きいくずれ、そこにかかっていた橋が落ちました。山がくずれ橋が落ちるほどの巨大な力に、おどろきました。自然と地球を目の前にしたら、人間は何もできないのか、とくやしく思いましたが、それでもその土地で生きていかななくてはいけないから、心を強く持って、防災についてしっかり学ぶべきだと思います。

ぼくはこの前、山に登った時に、『土石流注意』という看板を見かけました。その場所は、大きな岩がゴロゴロあって、坂なので、いつ落ちてくるかわからないので、す早く通りました。それから、山と山の間にくぼんだ部分に、砂防ダムがあるのをみました。その砂防ダムがある理由は、小さな土砂を下流に安全に流すため、すき間の空いた構ぞうになっていて、くずれ落ちてきた土砂をコントロールします。また、家に帰ると中、車内から、山のしゃ面にネットがかけてあり、土砂くずれを防いでいるんだ、とわかりました。

また、別の原因として、杉の植林が山の地ぼんのゆるみの原因ということも知りました。杉の根は、原生林とちがって根を土の深くまで張らず、浅く張るので、大雨にたえられず、地ぼんがゆるんだらその杉の木ごとたおれてそのまま土砂くずれにつながるのです。原生林とは、元々そこに生えていた木々で、根は太くて、深く根を張っているので周りの土をしっかりとつかんでいます。だから、原生林の多い山は、土砂くずれが起きにくいのです。

日本は災害の多い国です。だから防災ぎ術が進んでいます。けれども自然災害は、完全に予測することはできません。ではどう対応すべきか。ぼくは、一番大切だと思うことは、けいかい心を持つ事だと思います。こわがる事です。災害時には、情報しゅう集をして、近所の人にもつねに声かけをすることも必要です。自分の住む場所が安全かどうか、ひなん所の確にん、水や保ぞん食の備えそれも必要です。

ぼく達は、災害の多い国に住んでいるので、つねにけいかい心を持ち、そして災害時にそなえるべきです。

自然は時に、予測不かなすがたになります。共に生きていけないといけないので、自然と向き合っていこうと思います。